

今治地方水と緑の懇話会 平成24年度活動報告

～今治地域住民と次代を担う青少年等による水源の森整備事業～

【活動の概要】

植栽予定箇所は、今治市玉川町内にある林道窓の峠線沿線で、クズ、ササなどが繁茂しほとんど樹木のないところであった。保水機能の高い水源林としての機能を回復させるため、広葉樹の植栽を行い森林として再生する活動を計画した。面積は0.39ha、植栽樹種はクヌギなど落葉広葉樹7種類580本、ヤマモモなど常緑広葉樹6種類120本、合計700本とした。11月26日の活動予定日は、前夜から雨が降り続き、作業の安全性を考慮し植栽活動は延期とし、屋内で森林に理解を深める活動を行った。

参加者は、地域住民で構成される会員のほか、今治市立下朝小学校5年生、同上朝小学校4, 5, 6年生、当事業をご支援いただいたローソン様にもご参加いただいた。午前中は、講師として愛媛県東予地方局産業経済部今治支局森林林業課の職員にもお手伝いいただいた。職員からは、「森のはたらきとげんきな森づくり」と題して、間伐などの作業が森林にとってどんな効果があるのかを実験も交えながら説明され、森林と森林整備の大切さを分かりやすく説明いただいた。続いて、植栽予定箇所周辺で事前に採取した樹木について、児童たちに観察してもらい、その特徴を班ごとに発表してもらった。

昼食のあと午後からは、スギ板を使って本棚をつくる作業と枝を使ってストラップをつくる木工体験活動を行った。

後日、会員のほか、今治市水道部、農林振興課、玉川支所職員の協力も得て植栽活動を行い当初の目的を達成した。

【活動の成果】

植栽苗木の生長により、水源としての機能向上が期待されるとともに周辺林道の安定も図れると思う。また多様な樹種を植栽したことにより生物の多様性も期待できる。

また、今治市水道部のご協力により、水のお話を伺ったり、水道水のペットボトルをいただいたことで、森と水とのつながり、森の大切さがより分かりやすく印象に残ったのではないかと思う。

【参加者の声】

・森がなかったら、雨が降った時土砂くずれなどの災害が起こったり、空気がよごれたり、動物たちがいなくなったりするので森をいっぱいにして自然を増やしたいです。(5年女子児童)

・森のでき方や元気な森とそうではない森のちがいなどを教わった時、今まで習った理科の内容の復習や知らなかったところがありました。(6年女子児童)

・人工林というのは、人が植えた木だから手入れをしないといけないということがわかりました。(6年女子児童)

・木のすばらしさがよりわかりました。将来もぜひ木を使った机やベッドなどをもち、木をきちんと利用をしていきたいです。(6年男子児童)

森林教室 森のはたらき



森林教室 樹木の学習



木工体験 ボックス製作



集合写真



植栽活動



集合写真



【実績とりまとめ表】

実施時期		11月26日	11月28日	計	備考
作業内容	森林教室	○			植栽樹種および本数 クヌギ100本、ケヤキ100本、クリ100本、トチノキ100本、ホウノキ100本、エノキ75本、ヤマザクラ5本、スノキ20本、スダジイ20本、アラカシ20本、シラカシ20本、ヤマモモ20本、ウバメガシ20本 合計700本
	木工体験	○			
	植栽活動		○		
参加者数	子ども	55人		55人	
	大人	56人	28人	84人	
	計	111人	28人	139人	
実施場所		愛媛県今治市玉川町			